

Hello we are NVLU

ニチジュウ学生の取り組み





獣医学科 学生会

Hello

we are NVLU

動物とヒトを繋ぎ、都市と地方を繋ぐ架け橋はヒト自身です。
未来につなげるにはヒトとヒトとの繋がりを大切にしなければ
ならず、本大学にとって「繋がり」は強みです。その強みを
一言で表すと「Hello」。
獣医と生命科学の情報発信拠点たる我々が世界に Hello と
呼びかける必要があるのです。

CONTENTS

【特集 1】学生の取り組み・・・・・・・・・・ 4

- ・新学生部長 挨拶
- ・獣医学科 学生会
- ・馬術部 優勝
- ・馬術部 堆肥の活用
- ・酪育ラボ
- ・動物飼養学分野 むさしの Youth 環境フェスタ 2026
- ・食品科学科 学生の取り組み
- ・獣医学科 学生の取り組み

【特集 2】研究室 部門制へ編成・・・・・・・・・・12

【連載】スペシャリストへの道・・・・・・・・・・ 14

- ・卒業生編 食品科学科 伊藤ハム米久プラント株式会社 高橋 祐貴
(2015年 食品科学科 卒業)
- ・学生編 獣医保健看護学専攻博士前期課程 榎本 悠斗

【連載】博物館日誌・・・・・・・・・・ 16

【連載】ニチジュウ CAMPUS NOW・・・・・・・・・・ 18

【連載】データで読み解くニチジュウ・・・・・・・・・・ 19

Congratulations on the AWARD!! 梅野信吉賞 / 紫雲賞・・ 20

【連載】新任教員紹介・・・・・・・・・・ 22

学生の取り組み

ニチジュウ学生が取り組んでいることを特集します！

1 新 学生部長 挨拶

2 獣医学科 学生会

3 馬術部 優勝

4 馬術部
堆肥の活用

5 酪育ラボ

6 動物科学科 動物飼養学分野
むさしの Youth 環境フェスタ

7 食品科学科 学生の取り組み
チーズ探究会・チーズの研究

8 獣医学科 学生の取り組み
課外活動 命と自然の学生基地

学生部長
堀 達也 教授

本年度から学生部長を務めることになりました。学生の皆さんが安心して充実した学生生活を送れるよう、学習面の支援はもちろん、日々の悩みや将来の進路に至るまで幅広くサポートしていきたいと考えています。学生の声を大切にしながら、より良い環境づくりに取り組んでいきます。至らない点もあるかと思いますが、一つひとつ丁寧に向き合い、皆さんとともにより良い学生生活を築いていければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

私は約 35 年前に本学獣医学科を卒業いたしました。学生時代はケネルクラブに所属し、1,2 年次は部活動、3 年次以降は研究室（獣医臨床繁殖学研究室）での活動を中心とした大学生活を送っておりました。研究室では、恩師である筒井先生、河上先生から研究の面白さを教えていただきました。当時は先生方の研究を手伝う形で実験に関わっておりましたが、新しいデータが得られ、それを解析していく過程に大きな楽しさを感じていたことをよく覚えています。時には思うように進まないこともありましたが、先生方には大変熱心にご指導いただきました。そうした経験が、現在大学教員として大学に残るきっかけになっていると感じています。

在学生の皆さんは、日々、授業や実習、課外活動に励まれていることと思います。大学生活の中で、目標や悩みも多様になってきているのではないのでしょうか。もし困ったことや気になることがあれば、どうぞ遠慮なく学生部の窓口である教務課（学生支援係）にご相談ください。皆さんの大学生活がより充実したものとなるよう、学生部としてしっかりと支援してまいります。

獣医学科 学生会



本学獣医学科の発展に向けた改善点を先生方と共に考え、獣医学科の魅力を育み、高めていくことを目的とし、活動しています。活動内容や今後の展望についてご紹介します！

2025 年
11 月
発足

オープンキャンパスでの個別相談や大学ホームページ記事作成等の広報活動は、組織としては動いておらず、個々の活動となっていました。活動できる幅を広げることを図るため、獣医学科公認の組織化として、2025 年 11 月に学生会は発足されました。



活動内容

大学ホームページ掲載用の記事作成やオープンキャンパスで高校生に受験のアドバイス・大学生活についての個別相談をしています。他には、高校生対象のイベントにて獣医学科の説明も実施しています。



◀学生会が作成した
ホームページ



▲オープンキャンパスでの個別相談



▲高校生対象イベントにて獣医学科を紹介

今後の展望は、本学の低学年向けに学生生活のアドバイスや研究室紹介を行いたいと考えています。今まで外に向いていた広報の方向を内側に向け、高学年が今まで経験してきたことを下の世代に引き継ぎ、世代を繋ぐ架け橋となるような、そんな活動ができたらと考えています。

学生会の 魅力

大学の公認を受けており、大学が主催・企画したイベントの運営に携わることができる点です。多くの人とコミュニケーションをとるので、対人スキルが養えるのは大きな魅力だと思います。また、学生ならではの視座をより多くの場所に取り入れるお手伝いができるので、影響力が大きく、とてもやりがいがあります。

今後の 目標

学生会の活動をより多くの方に知っていただくことです。また、学生会が学生の意見を吸い上げて大学に還元できる、そんな団体を目指しています。カリキュラム編成や大学設備など、学生の声をより反映させることが満足度の高い学生生活・大学運営に繋がると考えています。



学生会 会長
獣医学科久米将太郎さん

かねてよりオープンキャンパスや大学の HP 記事の作成など広報に携わっていましたが、学生会では先生方の強いバックアップを得て、活動の幅を広げられるのではないかと思います。入会しました。オープンキャンパスの個別相談では、自分自身が経験してきた事を伝えることで受験生を勇気づけることができるのが嬉しく感じ、自分の経験や知識を学外だけでなく、学内の後輩へ伝え還元することで獣医学科がより良い学科になるように貢献できたらと思っています。新しく立ち上げられた組織なので、どのようにしたら学生会が大学や学生に貢献できるかを日々考え、よりよい運営ができるよう心掛けています。

馬術部

2025 年全日本学生馬術大会の賞典障害馬術競技大会で動物科学科 栗田翔心さんが
34 年ぶりとなる優勝を成し遂げました。2026 年度の馬術部主将を務めています。
優勝した時の栗田さんの気持ちや馬術部の魅力についてインタビューしました。



馬術部 主将
動物科学科 栗田翔心さん

34 年ぶり！ 全日本大会 優勝

優勝した時は本当に実感がわかなかったです。
普段から謙虚でいようとする姿勢を心がけているからこそ、自分が優勝していいのか
という不思議な気持ちになりました。もちろん、直前までは自分が優勝してやるという
強い気持ちをもって練習に励んでいました。



▲パートナーウルークと栗田さん（右）
7 位入賞 杉原さん（左）

共に戦うパートナーとのコミュニケーションを大事
にし、信頼したことが今回の優勝に繋がったのか
なと思います。また、優勝に向けて、毎日の小さ
なトレーニングをコツコツと積み重ねてきました。
今後は、馬術で培った経験を生かし、ファンに愛
され、ファンを魅了するような馬を育てることを目標
に馬関連の仕事に就きたいと思っています。



馬術の 魅力

馬術競技はオリンピック種目でも唯一「馬」という言葉がわからない生き物と共に戦います。それが面白い面でもあり、難
しい面でもあると思います。人と馬どちらかの調子が悪かったら、良い成績を残せません。

どちらもベストコンディションのコンビがいい成績を残すことができる点が、とても面白いと
思います。その特徴があるからこそ、性別や年齢に関係なく、誰もが平等に戦うことができ
る点も、さらに大きな魅力の一つだと感じます。



ラジオ・雑誌 出演

おさしの FM「発信!わがまち・武蔵野人」に出演！
雑誌「UMA ライフ」にも掲載されました！



▲ラジオ出演



▲雑誌「UMA LIFE」

主将

主将になってからは、成績を残すだけで
なく、部の運営や大会のエントリー等事務
的な仕事も増えました。



▲指導の様子

部員一人一人の目指すべ
き目標が違うので、主将と
してまとめるのが難しいと感
じることもありますが、その
部員に合った指導をできる
ように心掛けています。

堆肥の活用

富士アニマル ファーム



霊峰富士の麓、標高 1000m に位置する本学附属牧場である富士アニ
マルファームでは乳牛・肉用牛・馬・山羊・羊を飼育し、獣医学および動物
生産学の教育実習の場として活用されています。

餌を食べた動物は糞尿を排泄しますが、動物飼育者・生産者はこの糞尿の
処理にも責任を持たなければなりません。富士アニマルファームでは糞尿を
堆肥化する施設が整備されており、富士アニマルファームの動物と本学第二
校舎（武蔵境）にある馬術部の馬のフンを堆肥化し、再活用しています。

馬術部と 堆肥

本学第二校舎の馬術部の馬たちも糞尿を排泄しますが、キャンパス内には処理施設がない
ことから富士アニマルファームに運搬し、堆肥化しています。堆肥は富士アニマルファームの牧
草地に還元する以外は専門業者に引き取られますが、武蔵境の近隣住民にも活用していただ
きたいとの思いから、一部を本学第一校舎でも販売しております。

家畜のフンを利用した堆肥は土壌改良の効果が大きく、土壌の保水性、保肥性を向上させ
ます。家庭菜園や花の栽培にも最適です！ぜひご活用ください。



堆肥が できるまで

富士アニマルファームの堆肥化施設



▲堆肥舎



▲約2か月かけて発酵させます。



発酵熱が 80 度に上がります。
この発酵熱は悪い菌を死滅させます。

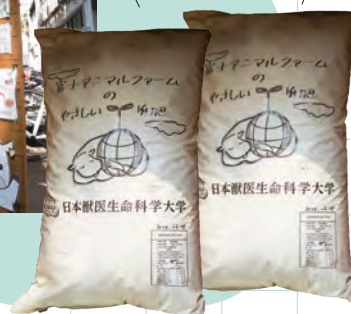
富士アニマルファームで堆肥の袋詰め



富士アニマルファーム産の 堆肥を本学第一校舎で販売



学生がデザイン
しました！





酪育ラボ

中学生に酪農を知ってもらうことを目的に本学付属牧場 富士アニマルファームで酪農体験を実施しています。この取り組みは、東京都三鷹市と協定を締結し、三鷹市と連携の下、実施しています。また、富士アニマルファームは、「酪農教育ファーム」の認証を得て活動しています。

2026 年4月
発足

これまでシステム経営学教室（現：動物生産システム学分野）において、酪農教育ファームの一環として中学生に酪農について伝える活動を行ってきました。しかし、同教室が今年度で部門・分野制に変更されることに伴い、この活動をサークルとして引き継ぐため、「酪育ラボ」を発足しました。



▲リハーサルを実施



▲座学講義 クイズも行いました！



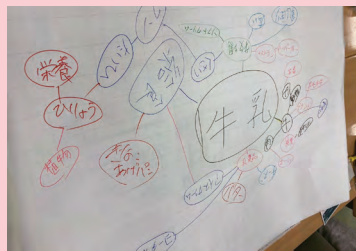
▲等身大の仔牛パネルを使用して説明します

活動内容

三鷹市の中学生を対象に、座学講義と富士アニマルファームで酪農体験を実施しています。座学講義では、ウェービングマップを用いて酪農に関する知識の共有や交流を図り、酪農体験では、搾乳や牛舎・堆肥舎の見学、哺乳、餌やり、ロバ引き、バター作りなど多様なプログラムを通して、「酪農」や「食」「いのち」について伝えています。



終了後のアンケートでは、「牛乳苦手だったけど、飲んでみようと思った」「酪農のことを知ることができた」等、活動を通して子どもたちの酪農への関心が高まったことを確認できました。



▲「牛乳」から連想されるワードを考えたウェービングマップ



▲中学生に説明

酪育ラボの魅力

どのように説明すれば中学生にわかりやすく伝えることができるかを考え、多くの知識をつけるために勉強するので、動物や酪農についてより深く学ぶことができます。また、外部のボランティアの方と関わることも多く、人とのつながりが広がることで大学生活がより充実しているなど感じています。

今後の目標

酪農教育ファームの活動を継続していき、対象者の拡大や実施回数を増やすことにより多くの人に学びの機会を提供できるように活動の発展を目指しています。

また、今年度は新たにアニマルウェルフェアの観点も取り入れた活動を展開していく予定です。



酪育ラボ会長
動物科学科 小泉華蓮さん

動物科学科
内田陽香さん



動物科学科 動物飼養学分野

むさしの Youth 環境フェスタ

動物科学科 動物飼養学分野（研究室）では、未利用資源の飼料化及び次世代の家畜生産に関する研究に取り組んでいます。また、穀物に依存しない家畜の特徴、機能を活かした飼料や飼養技術の開発から国産にこだわった持続可能な畜産の確立を目指しています。

今回は、研究室の取り組みとして、東京都武蔵野市主催のイベントに参加した様子をご紹介します！



むさしの Youth 環境フェスタ

2026 年 3 月 22 日（日）に東京都武蔵野市主催「むさしの Youth 環境フェスタ 2026」に参加しました。



▲発表も学生が実施

むさしの Youth 環境フェスタは、環境に関する活動を行うユース世代の高校生・大学生などの学校や学生団体・サークル等が開催する環境イベントです。



柴田昌宏教授
太田りょうさん
堀井歩海さん
鈴木麗さん
末藤繪さん
乙坂里奈さん

▲今回のイベントに参加した研究室のみなさん

発表 テーマ



▲試食のお肉を準備中



▲富士アニマルファームの牛肉

「"もったいない"を原点に和牛生産へのチャレンジ」をテーマに、研究内容の紹介と本学付属牧場 富士アニマルファームで育てた牛肉の試食を実施しました。

お肉の試食では、「柔らかい!」「すごくおいしい!」等のお声をいただきました!



▲試食中

経産牛の 肥育

和牛の経産牛肥育に取り組んでいます。経産牛とは、子牛を多く出産してきた母牛のことを指します。役目を終えた母牛は、安価で肉牛として市場に出回りますが、これまで繁殖牛として大きな役目を終えた母牛に付加価値を、という思いから役目を終えた母牛の肥育をしています。この経産牛に「どんな餌を与えればより肉質が良くなるのか、肉の量が増えるのか」を研究しています。



▲肥育した経産牛

粕を 再利用した 飼料

実際に与えている餌は、ビールを作る際に出る粕を再利用し本学で作った「ビール粕サイレージ」や「デントコーンサイレージ」になります。むさしの Youth 環境フェスタでは、これらの餌の展示も行いました。



▲資料の展示



▲質問に答える様子



食品科学科 学生 取り組み



チーズ研究会サークル長
食品科学科 三浦真央さん

好きなチーズはブルーチーズ！

チーズに合うお酒の勉強も始めました！

ワイン検定、SAKE 検定、チーズ検定を取得！

チーズ好き 応用生命科学部 食品科学科 4年生

三浦真央さんの活動を紹介します！

チーズ研究会 サークル長

チーズ研究会に所属し、サークル長を務めています。

活動内容は、世界各国のチーズから国産チーズまで様々なチーズの違いや製造方法などについての勉強会や取り寄せたチーズの試食を実施しています！



▲チーズの勉強会

買ってきたチーズもみんなで食べました！

チーズとの 出会い

始めは、チーズのことはほとんど知らず、チーズ研究会に何となく入りました。入ったからには精一杯活動するぞ！と思い、積極的に活動へ参加していくうちに、チーズの奥の深さに虜になりました。

チーズの 魅力

種類の多さ、地域や原料、製造方法などによって大きく違いが生まれる点が魅力であり、非常に面白い食品だと思います。原料となるミルクでは、乳牛や山羊、羊など様々な動物のミルクが使われていて、微生物や凝乳方法、製造方法、熟成工程などが違えば、香りや味わい、食感が全く異なるチーズになります。さらには飲み物の組み合わせによって、また違った美味しさを楽しむことができ、さらにさらに世界や日本では…と話が尽きないほど奥深い食品だと思います。



▲ホエイを煮詰める



▲水分が飛んで茶色に変化



▲固めるとブラウンチーズに！



▲ブラウンチーズの研究

将来の 夢

サークル活動を通じて日本各地にあるチーズ工房が自分たちの仕事に誇りをもってチーズ作りをしている姿を見て、将来は自分の手でチーズ作りをしたい！と思うようになりました。また、人との繋がりを大切に、勉強を続けていきたいと思います。そして、いつかは胸を張ってチーズ職人です！と言えるように頑張ります！



▲チーズ工房の牧場見学



▲チーズ工房でチーズ作り体験

獣医学科 学生 取り組み



獣医学科
進藤美生さん

獣医学部 獣医学科 3年生 進藤美生さんの活動を紹介します！

将来の 夢

人と動物とを繋ぐ架け橋のような存在になりたいと思い、獣医師になろうと思いました。

将来は、動物園獣医師になりたいです。

将来の夢に向けて、授業や実習以外でも動物園獣医師に繋がるような課外活動をしたと思っていた時に「命と自然の学生基地」の活動に出会いました。

命と自然の 学生基地

「命と自然の学生基地」は、地域・学校の垣根を越えた学生が、同じ志を持つ仲間と協働し、One Health（人・動物の健康と地球の健全性は一つにつながっているという概念）に基づいた主体的な活動を展開していく拠点です。全国から学生が集まっています。地域によって所属する支部が異なり、私は日獣など関東の学生が集まる関東支部に所属しています。



▲東北支部のメンバーと合宿

関東支部では、全部で6つのプロジェクトが進行中！
立案、計画、実行まで全てメンバーで実施しています。

ワークショップ

NPO 法人はたらくらすさんが主催する小学生対象のワークショップにボランティアとして参加しました。ワークショップでは、動物園で動物について説明しながら園内を一緒に周りました。その後に「オリジナルの最強キャラを作ろう」と題して、紙を使用して工作をしました。



▲動物園ワークショップ



▲オリジナルキャラ作成

関東支部の活動

関東支部では、動物園・水族館を見学しに行き、見学した後に「あの展示方法が良かった」等、メンバーの意見を共有しディスカッションを実施しています。

また、学生基地の全国的な活動として、オンラインで学生と動物園や水族館の展示方法や動物の輸送方法等、動物園 水族館についての勉強会を実施しています。



▲動物園見学後のディスカッション



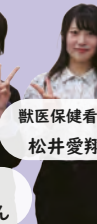
▲動物園見学

多くの人に参加してもらえるような企画を考えたり、予算の調整に苦勞し、人を巻き込んで物事を進めていくことに大変さを感じることもありますが、多くの人と関わって1つのプロジェクトを完成させていくので、とてもやりがいを感じます。

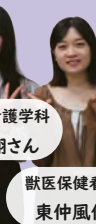
ニチジュウ生の
所属メンバー



獣医学科
進藤美生さん



獣医保健看護学科
松井愛翔さん



獣医保健看護学科
東仲風佳さん



獣医学科
澤口凜さん



▲北支部の活動：動物園でクイズを作成しました

研究室 部門制へ編成

令和8年4月より、獣医学科、動物科学科、食品科学科、全学教育センターの研究室が部門制へ変更になりました。（獣医保健看護学科は、当初より部門制）

獣医学科：5 部門 20 研究室、獣医保健看護学科：3部門 10 分野、動物科学科：3 部門 17 分野、食品科学科：3部門 11 分野、全学教育センター：3部門 9 分野 の編成になりました。



学長
鈴木清悦

なぜ研究室を「部門制」に変更しましたか？

本学では、教員と学生の距離が近い少人数教育を特色とする研究室制度のもと、きめ細かな教育を実践してきました。この伝統は今後も大切に継承します。一方で、研究室間の交流や協働を促進し、学問分野の専門化や社会の変化に柔軟に対応するため、分野の再編や新設が行いやすい部門制へ移行しました。

一部門制に変更になったことで期待することを教えてください。

部門制により、研究室の枠を超えた教育・研究活動や教員間の連携が進み、分野横断的な学びや新たな研究領域の創出が期待されます。また、時代の要請に応じた組織改革を機動的に進めることが可能となります。従来のきめ細かな少人数教育を維持しながら、より柔軟で発展的な教育・研究体制を実現していきます。

獣医学科

基礎獣医学部門

獣医解剖学研究室
獣医生理学研究室
獣医生化学研究室
獣医薬理学研究室
比較動物医学研究室

病態獣医学部門

獣医病理学研究室
獣医微生物学研究室
獣医感染症学研究室
獣医寄生虫学研究室

応用獣医学部門

獣医公衆衛生学研究室
獣医衛生学研究室
水族医学研究室
野生動物学研究室

臨床獣医学部門

獣医内科学研究室
獣医内科学第二研究室
獣医臨床病理学研究室
獣医外科学研究室
獣医放射線学研究室
獣医臨床繁殖学研究室
産業動物臨床学研究室

獣医学教育支援部門

獣医保健看護学科

獣医保健看護学臨床部門

代謝・栄養学研究分野
臨床検査学研究分野
人と動物の関係学研究分野
実践動物看護学研究分野

獣医保健看護学基礎部門

比較遺伝学研究分野
微生物・感染症学研究分野
生体機能学研究分野

獣医保健看護学応用部門

病態病理学研究分野
疫学・公衆衛生学研究分野
保全生物学研究分野

動物科学科

基盤動物科学部門

実験動物学分野
動物ゲノム進化学分野
動物行動福祉学分野
動物共生経済学分野

動物生産実践科学部門

動物生産システム学分野
動物飼養学分野
動物飼料栄養学分野
動物遺伝育種学分野
動物生殖学分野
動物生殖工学分野

応用動物機能科学部門

感染防御学分野
免疫生物学分野
栄養機能学分野
代謝制御学分野
環境生理学分野
生理解析学分野
形態機能学分野

食品科学科

食健康科学部門

食品機能化学分野
食品衛生学分野
食品安全健康学分野

食生命科学部門

農産食品学分野
調理科学分野
食品化学分野
食品バイオテクノロジー分野

産業創生科学部門

地球資源利用学分野
食嗜好創生学分野
バイオプロセス工学分野
フードシステム分野

全学教育センター

基盤教育部門

生体分子化学分野
物理学分野
病態発生物理学分野
獣医事法学分野
英語・言語学分野

教職教育部門

教育実践学分野
人と動物の Well-being 心理学分野
比較発達心理学分野
比較細胞生物学分野

学芸員教育部門





卒業生編

スペシャリストへの道

本学の教育理念は「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」。

獣医、獣医保健看護、動物、食品に関する専門職（スペシャリスト）の道を歩むことを目指す学生の活動と

既に歩んでいる卒業生の活躍を紹介します。



伊藤ハム米久プラント株式会社 夢工場 商品開発担当 高橋祐貴 Takahashi Yuki

そうした経験を通じて、食に対する視野や意識を学生のうちから大きく広げることができたと感じています。

ー大学時代の研究で大変だったことはありますか？

研究では、思うような結果が出ずに悩む時期もありました。その際は、研究室の教授をはじめ、授業でお世話になった先生方や研究室の先輩に積極的に相談し、進め方について多くのアドバイスをいただきました。そうした中で、これまでは異なる視点からアプローチするようになり、次第に手応えを感じられるようになりました。最終的には、自分が目指していた形に近い結果を得ることができ、研究成果としてまとめることができました。

ー現在の職業に就いたきっかけを教えてください。

製造の現場で働く中で、商品開発に対して漠然とした憧れを抱いていたこともあり、いずれは開発業務に携われたら良いと考えていました。入社3年目の頃、5年目以下の若手中心に上司との面談で将来について話す機会があり、その場で開発職に挑戦したいと自ら手を挙げました。後日、上司から「挑戦してみないか」と背中を押していただき、開発部門への推薦につながりました。その後、開発部長との面談を経て現在の職業となっています。

ー商品開発において大変だったことはありますか？

一度、保存検査をクリアできなかったことがあり、とても焦ったことがありました。発売日が決まっている中で、開発期限ぎりぎりのタイミングで問題が判明し、非常に厳しい状況でした。その際は、先輩や上司に相談し、添加物の選定や製法の見直しなどについてアドバイスをいただきながら改善を進めました。結果的に発売に間に合わせることができ、周囲の支えにとっても救われました。

ー在校生へのメッセージをお願いします！

現在、研究に取り組んでいる方も多いと思いますが、テーマに対してどのようにアプローチし、結果をまとめ、次につなげていくという一連の流れは、社会に出てからも変わらず求められる力です。いわゆるPDCAの考え方は、仕事においても非常に重要で、学生時代の研究はその基礎を身につける貴重な機会だと思います。今取り組んでいることは、将来に向けた訓練でもあります。目の前の研究にしっかり向き合っていくことで、社会に出たときに必ず役立つはずです。ぜひ、自分の経験として積み重ねていってください。

開発した商品



学生編

スペシャリストへの道



大学院獣医生命科学研究科
獣医保健看護学専攻博士前期課程 1年次

榎本悠斗 Enomoto Haruto

動物のリハビリテーションに
関わる臨床部門で活躍したい。

ー大学院へ進学し、研究しているテーマについて

教えてください。

大学院獣医生命科学研究科 獣医保健看護学専攻博士前期課程に進学し、病気や怪我で運動機能に障害がある犬猫に対してのリハビリテーションに取り組んでいます。「水中トレッドミル」という水中で実施する歩行運動のリハビリがあるのですが、この「水中トレッドミル」は、浮力を利用し、関節への負担を軽減させてリハビリをすることができます。しかし、犬猫に対して実施する場合、全国的に統一された水質の基準が存在しません。そのため、獣医療現場における水中療法の水質管理の実態を明らかにするための研究を行っています。感染症等を引き起こさず、より安全にリハビリができるように、ガイドライン策定に資する基礎データを収集し、適切な水質管理のための指針作りが重要であると考えています。

ーなぜ大学院へ進学しようと思いましたか？

学部生時代、本学の付属動物医療センターで歩けなくなった犬の診察を見学する機会がありました。飼い主は回復を諦めていましたが、先生から車椅子という選択肢を提案され、とても喜ばれていた姿が印象的でした。また、飼い主同伴でリハビリを行うことがあり、愛玩動物看護師が声を掛け合いながら飼い主に寄り添って取り組んでいる姿を見ました。こうした経験からリハビリは動物と飼い主に大きな可能性をもたらすと実感し、大学院に進学し、より深い知識や技術を身につけたい

と考えるようになりました。

ーどんな愛玩動物看護師を目指していますか？

専門的な知識と技術をもとに、動物一頭一頭に合わせたリハビリを安全に提供できるスペシャリストを目指しています。本学は、付属動物医療センターが併設されているので実際の診察に関わることができ、とても勉強になっています。実践的な経験を積みながら学べる点がニチジュウの大きな魅力だと感じています。

ー研究を進めていく上で、大変だったことはありますか？

実験ノートの書き方や水質検査の手技を覚えるのに苦労しました。最初は記録の仕方や手順が分からず戸惑うことが多かったのですが、大学院の先輩からその都度丁寧に理解できるまで教えていただきました。また、水質検査をする際は、より専門性の高い疫学・公衆衛生学研究分野の先生に相談し、助言をいただきました。その助言をもとに繰り返し練習することで、徐々に正確に実験を進められるようになりました。



▲水中トレッドミルを使用したリハビリ

ー実際に付属動物医療センターで診察をする時

に気を付けていることはありますか？

患者動物が疲れていないか、その日のコンディションをよく観察するように心掛けています。今後も患者動物に合ったリハビリ方法を提案できるようになっていきたいです。



▲水中トレッドミル後の水を採取し、水質検査を実施。

ー在校生にメッセージをお願いします！

大学生活での経験や出会いを大切にしながら、成長していった欲しいと思います。

授業や実習だけでなく、一つひとつを大切に積み重ねていくことが将来につながると思います。失敗や迷いも含めて前向きに経験として受け止め、自分の力に変えていった欲しいです。



日本獣医生命科学大学付属博物館は、一号棟を拠点に様々な活動に取り組んでいます。
2025年11月から2026年5月までの活動の一部を紹介します。

【活動日誌277】2025年11月1日公開
特別解説ツアー開催

大学祭にあわせ、活動拠点である一号棟の特別解説ツアーを開催しました。一号棟は明治時代に麻布区(現港区)に建てられた区役所庁舎を移築したもので、国の登録有形文化財(建造物)として認められています。特別解説ツアーでは本学出身の学芸員が、その見どころをお伝えしました。



解説ツアーの様子

【活動日誌286】2025年12月18日公開
博物館教育論の授業にて活用されました

学芸員課程の開講科目の一つである博物館教育論では、博物館で行う教育プログラムを考えることが課題の一つとなっています。課題のヒントを探しに履修中の3年生が博物館の見学に来てくれました。履修生には当館のこれまでの事例を紹介したうえで、実際に使用した教材を見てもらいました。



【活動日誌289】2026年1月15日公開
小学2年生の生活科の授業に協力しました

境南小学校に通う2年1組の児童の皆さんが生活科の学習の一環で見学にいらしゃいました。自然系展示室を案内し、展示中の剥製の中には武蔵野市内でも見ることができる動物がいることを伝え、児童の皆さんはとても驚いていました。



身近な野鳥を多数展示しています



【活動日誌292】2026年2月12日公開
エミューの卵標本を作りました

学芸員が入手した食用のエミューの卵を活用し、卵の殻の標本作りとあわせて卵の試食会を開催しました。応用生命科学部食品科学科乳肉利用学教室の三浦孝之准教授にご協力いただき、食品製造実習室にて卵から卵液を抜き取り、殻は水洗いをして標本に、卵液は学科の実習で製造したベーコンと一緒にスクランブルエッグにしました。

TOPICS 1: 第2回企画展「日獣大驚異の部屋」開催中!

3月14日より、館名変更後2回目となる企画展「日獣大驚異の部屋」を開催しています。本展示では、当館が開館してから10年かけて集めた資料の中から、「本学の歴史に関するもの」と「本学の教育に関するもの」に焦点をあてつつ、これまで展示されてこなかった様々な資料をまとめて展示しています。



TOPICS 2: 書籍『キリンが来た道 麒麟児 長次郎の歩み』発売中!

大学報83号でも紹介した当館監修の書籍『キリンが来た道 麒麟児 長次郎の歩み』が3月23日に発売となりました。本書は2024年に開催したイベント「キリン講話会」の内容をもとにしたもので、石井学芸員がキリン「長次郎」の歩んだ歴史を紹介するとともに、講話会にてご講演いただいた4人の先生方に、様々な角度からキリンについて語っていただいています。全国の書店やamazonなどのオンラインストアのほか、当館でも購入が可能です!

【タイトル】キリンが来た道 麒麟児 長次郎の歩み
【発行日】2026年3月23日
【監修】日本獣医生命科学大学付属博物館
【著者】石井奈穂美・郡司芽久・川田伸一郎・清水勲・齋藤美保ほか
【発行】工作舎



詳細はこちら



ドリルを使って卵の殻に穴を開けました

【活動日誌305】2026年4月28日公開
ヒクイナとテンの剥製が完成しました

剥製作製の専門業者に依頼していたヒクイナとテンの剥製が完成し、博物館に納品されました。今回剥製になった個体は、どちらも昨年一般の方から死体をご提供いただいたものです。これらの剥製は館内にて殺虫処理を行った後、自然系展示室にて展示する予定です。



【活動日誌308】2026年5月7日公開
キリン「長次郎」のクリーニングを実施しました

長年にわたり一号棟にて展示され、昨年1月に解体されたキリン「長次郎」の骨格標本のクリーニングを実施しました。当日は尼ヶ崎剥製標本社様にご指導いただき、学生ボランティアとともに標本を水洗いしました。長次郎は全身の骨がほぼ残されていますが、骨によって状態が異なります。大きく頑丈な骨は高圧洗浄機を活用し、細かな骨や脆い骨はブラシを使って一つ一つ手作業で洗いました。一日がかりの作業となりましたが、学生たちは興味深そうに骨を触りながら、熱心に作業に取り組んでくれました。



大きな骨も最後の仕上げは手作業です



【活動日誌309】2026年5月9日公開
学芸員課程の見学実習が始まりました

本学の学芸員課程履修生は3年生の時点で学内実習(見学実習・実務実習)が行われ、見学実習は当館の学芸員が担当しています。見学実習では、博物館を訪れた履修生に当館が資料管理のために行っている業務や、木造校舎を活用している当館ならではの工夫を紹介しました。



日本獣医生命科学大学付属博物館 基本情報

【開館日時】 火曜日～土曜日 10:30～17:00
(最終入館および物販は16:30まで)
【休館日】 日曜日・月曜日・祝日、年末年始、大学の定める休日(その他臨時休館あり)
【入館料】 無料
【入館方法】 開館日時に直接博物館までお越しください



WEBサイト



来館案内

※開館日程は事前の告知なく変更になる場合があります

「活動日誌」について

博物館公式Facebookにて、日々の活動をまとめた「活動日誌」を公開しています。2020年10月の公開開始から、これまでに300件を超える日誌を公開しました。このページに掲載した「活動日誌」は、Facebookにて公開した活動日誌に加筆修正を加えた特別版です!

Facebookはこちら





📷 令和 8 年度入学式

4月7日に令和8年度入学式が執り行われ、獣医学科105名、獣医保健看護学科123名、動物科学科116名、食品科学科67名、大学院生24名の計435名が入学しました！



📷 獣医への扉 獣医学科一日体験入学

令和8年3月30日(月)に、次世代を担う中高生を対象に、獣医師の仕事や獣医学について理解を深めてもらうことを目的とした招待型イベント「獣医への扉 獣医学科一日体験入学」を開催しました。

このイベントは、すでに獣医学科への進学を考えている人だけでなく、理系・文系の選択に迷っている人や、動物や生命科学に興味のある人などを対象に将来について考えるきっかけとなるよう企画したものです。第1回目となった本イベントは、5校の高校より、生徒20名と、高校教員5名にご参加いただきました。



📷 付属動物医療センター紹介動画が完成！



▲ルル



本学付属動物医療センター施設紹介動画が完成しました！
日獣大第76期のケネル犬であるサモエドのルルが大活躍しているこの動画は7月20日(月・祝)、8月8日(土)・9日(日)に開催されるオープンキャンパスでの「付属動物医療センター見学」にて放映いたします。またWEBオープンキャンパス内の施設紹介ページでも視聴可能ですので、ぜひご覧ください。

📷 令和8年11月1日(日)にニチジュウミーティングを開催します

本学の特色ある研究を推進する「ニチジュウシンポジウム」と人と動物が健康で幸福に暮らすことができる社会の実現に向けた「ワンヘルス・ワンウェルフェアセンターシンポジウム」を融合し、今年は「ニチジュウミーティング」として開催します！

日時：令和8年11月1日(日)
午前の部/10時00分～・午後の部/13時30分～
会場：日本獣医生命科学大学 B 棟 5 階 B511・512 講義室



📷 「書籍チラシ2026」完成しました

本学教員が執筆した書籍を紹介したチラシが完成しました。
オープンキャンパスでは、原本と一緒に展示する書籍コーナーを作成しました。



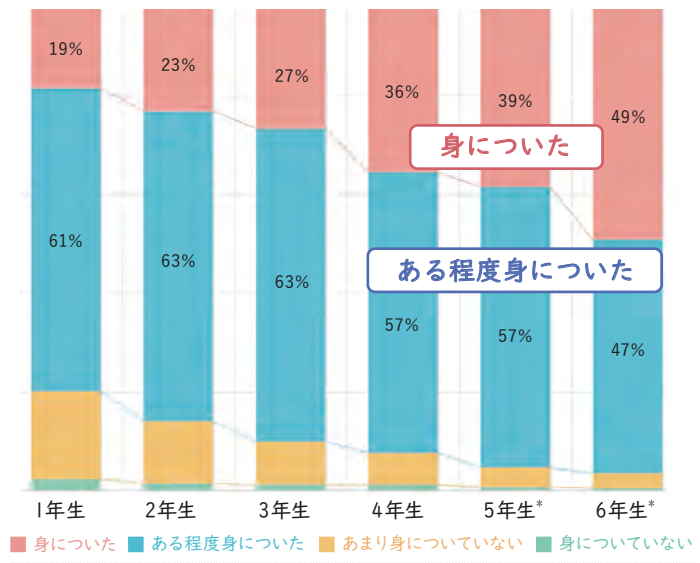
学年が上がるほど、成長の実感もアップ!!

日本獣医生命科学大学では、毎年全学科を対象に学生調査を行っております。

この学生調査では、本学学生の学習・生活全般にわたる意識、実態を把握することや、学生支援サービスの向上などを目的としております。それでは2025年度学生調査から、一部データを読み解いていきましょう！



▼下のグラフは、「専門分野に関する知識・理解についての成長実感度」になります。



1年生では、「身について」「ある程度身について」と回答した学生は80%となっています。入学直後の段階でも、多くの学生が専門分野の学びに一定の手応えを感じていることがうかがえます。
その後、学年が進むにつれてこの割合は着実に上昇し、4年生では93%に達します。講義や実習、さまざまな学修経験の積み重ねを通して、専門的な理解や実感がより確かなものへと深まっている様子が見て取れます。
さらに獣医学科では、6年生になると96%にまで到達し、ほとんどの学生が自身の成長を実感する段階に至っています。
ニチジュウ生は、在学期間を通じて専門分野への理解と手応えを積み上げながら、その実感を更新し続けています。



進路・就職先一覧

▶ 獣医学科	進路・就職先	人数
	獣医療（小動物臨床）	41
	獣医療（産業動物臨床）	8
	国家公務員	5
	地方公務員	5
	その他の業種	8
	進学	3
	合計	70
▶ 動物科学科	進路・就職先	人数
	産業動物・農業関連産業	12
	研究・検査分析機関	14
	化学・医薬関連産業	12
	公務員・教員	5
	食品関連（製造・卸・フードサービス）	6
	その他の業種	12
	進学	12
	合計	73

資格取得情報（令和7年度時点）

獣医師国家試験合格率 87.3%	学芸員資格取得者 19人	中級バイオ技術者認定試験合格者 21人
愛玩動物看護師国家試験合格率 99.0%	HACCP 管理者資格合格者 34人	上級バイオ技術者認定試験合格者 1人
	実験動物一級技術者認定試験合格者 9人	教員免許取得者 24人

速報！令和7年度卒業生就職状況

令和7年度卒業生の就職率は… **96.4%**

獣医学科	98.6%	獣医保健看護学科	98.9%
動物科学科	92.6%	食品科学科	93.6%

▶ 獣医保健看護学科		進路・就職先	人数
		動物病院	73
		公務員・教員	4
		製造業（医薬品・食品・飼料・生活用品）	2
		検査・治験等	2
		その他の業種	8
		進学	4
		合計	93

▶ 食品科学科		進路・就職先	人数
		食品関連・製造業	17
		卸・小売・外食	13
		情報処理(SE)	4
		公務員・教員	2
		電気・ガス・水道業	3
		その他の業種	4
		進学	2
		合計	45

Congratulations on the AWARD!!

梅野信吉賞

日本獣医生命科学大学同窓会の協賛事業で、若手研究者の奨励を目的とし、
顕著な業績を挙げ本学の榮譽に貢献した教員を表彰します。



犬の難治性慢性腸症に対する
間葉系幹細胞を用いた細胞治療の確立
獣医学科 准教授 手嶋 隆洋

獣医学部 獣医学科 獣医内科学研究室 手嶋 隆洋 准教授が「犬の難治性慢性腸症に対する間葉系幹細胞を用いた細胞治療の確立」にて梅野信吉賞を受賞しました。

——どんな研究でしょうか？

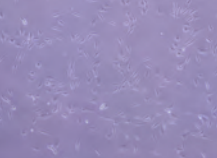
犬の慢性腸症は代表的な消化器疾患である一方、約 3 割の症例では治療反応が乏しく、生活の質が大きく損なわれています。そこで、このような難治性疾患に対する新たな治療法として、間葉系幹細胞 (MSC) を用いた細胞治療が期待されています。私たちは治療効果の安定化を図るため均質な細胞ソースを目指して不死化 MSC を樹立し、機能解析等の結果から、従来利用している MSC よりも理想的な細胞ソースであることを明らかにしました。また、犬の難治性慢性腸症に対する細胞治療の臨床研究では、複数回投与による治療効果や安全性を世界で初めて報告しただけでなく、適用症例の選別化につながる有用な知見を見出すことができました。

——これからの研究の展望を教えてください！

私たちの研究プロジェクトのゴールは、獣医療における MSC を用いた細胞治療を、できるだけ多くの難治性疾患に対する新たな治療法として確立することです。そのため、単なる臨床報告にとどまることなく、社会実装を見据えた研究開発への取り組みを常に意識しています。今後は、犬の慢性腸症に限らず、対象動物種や適応疾患の拡大を図るとともに、樹立した不死化 MSC 株の実用化を目指した研究活動を展開していきたいと考えています。



▲ 細胞培養の様子



▲ 樹立した不死化 MSC

細胞治療の安定化に向けた
不死化間葉系幹細胞の樹立

ポストドクター 康村 裕堯さん

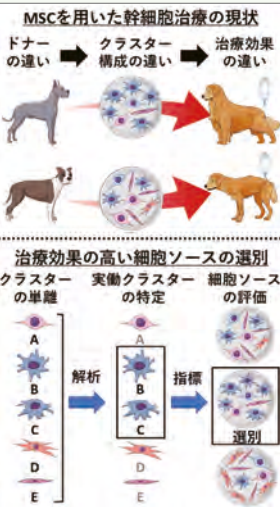
ポストドクター 康村 裕堯さんが「細胞治療の安定化に向けた不死化間葉系幹細胞の樹立」にて梅野信吉賞 若手研究者奨励賞を受賞しました。

——どんな研究でしょうか？

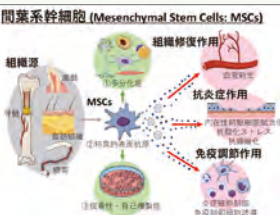
間葉系幹細胞 (MSC) を用いた細胞治療は、免疫の調節、傷ついた組織の修復、血管新生の促進など多面的な作用をもつことから、難治性疾患に対する新しい治療法として期待されています。しかし、MSC はもともと性質の異なる細胞が混在した不均質な集団であり、ドナーや培養条件によって機能が変化するため、治療効果が安定しにくいことが大きな課題でした。そこで本研究では、犬の脂肪由来 MSC をもとに、性質を保ったまま長期間安定して増殖できる「不死化 MSC」を樹立し、再現性の高い細胞治療研究と高品質な治療用細胞の開発につながる基盤を築きました。

——これからの研究の展望を教えてください！

今後は、不死化 MSC を活用して細胞集団内に存在する機能の異なるクラスターをさらに詳しく解析し、治療効果の中心を担う「実働クラスター」の特定を目指します。これにより、治療に有効な細胞を事前に評価・選別する新たな指標の確立につなげ、MSC 治療の再現性、安全性、品質管理をさらに高めることで、獣医療における幹細胞治療の実用化と安定化に貢献したいと考えています。



▲ 幹細胞治療の課題と研究目的



▲ 間葉系幹細胞の特性と機能

紫雲賞

日本獣医生命科学大学後援会の協賛事業で、本学の学生の教育並びにその推進に優れた貢献をした教員及び団体を表彰します。



魚病分野（水生動物学分野）における
獣医学科及び獣医保健看護学科への教育・研究を牽引

獣医学科 教授 和田 新平

魚病分野（水生動物学分野）における獣医学科及び獣医保健看護学科への教育・研究を牽引し当該分野の発展に寄与するとともに、多くの人材を育成した獣医学部 獣医学科 水族医学 和田 新平 教授が紫雲賞を受賞しました。

——魚病分野（水生動物学分野）で行った研究、授業、実習等で思い出深いエピソードをお聞かせください。

養殖アユで現時点で唯一知られているウイルス性疾患である「異型細胞性鰓病 (ACGD)」の診断には大型の異型細胞を検出する事が重要でした。当時は病理組織標本を作成する手法が主流でしたが、ある時、現場で病魚の鰓 (エラ) 組織のスタンプ標本を使ってみてはどうかと思いつき、早速実施してみると、これが迅速簡易診断手法として利用可能であることを見出せました。それから多くの ACGD 症例を集めて鰓スタンプ検査を実施して、異型細胞のデータを集積しました。さらに、それらを ACGD に関する他の情報と共に農林水産省委託事業の魚類防疫技術書シリーズの一冊としてまとめる事も出来ました。しかしながら、それが水産学分野出身の現場担当者にはなかなか浸透せず、その点には随分と戸惑いました。彼らからすると鰓スタンプは鑑別が難しい手法に見えたようです。確かに ACGD は PCR で確定診断可能ですが、鰓スタンプで迅速診断すると治療開始が早まり、被害の低減に役立つことをご理解いただくまでには時間を要しました。

——日獣の学生、大学に望むことをお聞かせください。

本学に設置されている学科は「環境・動物・食・医療」を通じてひとつながりであると感じています。自分が所属しない他の学科の教育・研究内容にも興味を持って欲しいです。



▲ 定年退職教授記念講演にて受賞式が行われました



▲ 米国 North Carolina での採材風景

新任教員紹介

動物科学科・動物生殖工学分野

講師 影山 敦子

これまでは…

動物が好きで、動物に関わる仕事に就きたいと思い、動物の事が広く学べる本学の動物科学科に進学しました。学部在学中はハタネズミの生殖細胞や受精現象に興味をもち、動物生殖学教室（現：動物生殖工学分野）に所属しました。大学院ではハタネズミの生殖補助技術の確立に関する研究に取り組みました。卒業後は、公益財団法人実中研で非ヒト霊長類のコモンマーモセットの生殖細胞を用いた研究を行っていました。もっと受精・胚発生で起こる様々な現象を探究したいと思い、本学に着任する前まで麻布大学の動物繁殖学研究室において、受精メカニズムの解明や必須微量元素である亜鉛イオンと生殖細胞の関係についての研究をおこなっていました。

これからの意気込み

「動物が好き」・「動物のことを勉強したい」という気持ちから、本学で面白い様々な授業を受けて「もっと学びたい」と思うようになりました。私もそういった学生さんに興味・関心をもってもらえるように、日々わかりやすい、面白い授業を心がけていきたいです。研究面では、今後も自身の興味のある受精・胚発生メカニズムについて、まだ明らかになっていないことを解明していきたいです。

好きなこと・大事にしていること

動物全般が好きなので動物園に行ったり、時間のない時は動物園が配信している SNS などでも日々癒されています。友人と遊んだり、映画を見て気分転換をしています。

在学生へのメッセージ

今しかできない大学生の時間や体験を大事にしてください。私自身、「海外研修に行っておけばよかった」や「もっと課外活動で色々すればよかった」と今になって後悔することばかりです。授業や実習は大変だと思いますが、それ以外のことにも積極的に挑戦してください。

獣医保健看護学科・生体機能学研究分野

助教 菅井 和久

これまでは…

学部・修士・博士と9年間日獣大に通いました。また、教職課程で教員免許も取得しました。学位取得後は、医学部で研究に従事し、基礎研究だけでなく臨床研究にも関わっていました。現在は、病気の新規治療法やフェルトーシスについて研究をしています。また、高校生に研究指導する機会もあり、大変貴重な経験となりました。

これからの意気込み

ワンヘルス・ワンウェルフェア、SDGs の観点からも更に研究を発展させていきたいと考えています。そして、研究と教育を通じて、社会へ貢献していきたいです。研究は未知への挑戦で、分からないことだらけです。学生皆さんとも一緒に学び、成長していけたらと思います。また、学内のいろいろな先生方とコラボし研究をしてみたいと思います。

好きなこと・大事にしていること

武蔵境で家系ラーメンといえど… 皆さんお分かりですね。高校生のときにオープンキャンパスの帰りに訪れたのが出会いです。それから10年以上通っています。

昔からネコと一緒に生活をしており、学生のときには心筋症の子が日獣大の動物医療センターにお世話になりました。現在は、シャム（サイアミーズ）、アメリカンショートヘア、ベンガルを飼っています。全員シニアですが、いつまでも元気でいてほしいです。

在学生へのメッセージ

学業もプライベートも充実した時間を過ごしてほしいです。学生の特権を最大限に活用し、将来の選択肢・可能性が少しでも広がってくれたらと思います。

獣医学科・水族医学研究室

講師 小峰 壮史

これまでは…

日本獣医生命科学大学水族医学研究室において、水族館飼育魚類における非結核性抗酸菌の感染経路に関する研究により博士号を取得いたしました。その後、国立感染症研究所（現、国立健康危機管理研究機構）において、非結核性抗酸菌に加え、結核菌に関する研究に従事してまいりました。非結核性抗酸菌については、鑑別が困難な菌種に対する迅速鑑別法の開発や、ゲノム情報と病原性・薬剤感受性といった表現型との関連解析を中心に研究を進めてまいりました。また、結核対策の分野では、次世代ワクチンの研究開発に携わり、ゲノム解析を用いたワクチン株の安定性評価に取り組んでまいりました。

これからの意気込み

世界の結核罹患数は1,000万人を超えており、結核は依然として公衆衛生上の重要な課題です。一方、日本をはじめとする結核低蔓延国においては、結核に代わり非結核性抗酸菌症の患者数が増加しており、その対策の強化が求められています。このような背景を踏まえ、これまで取り組んできた抗酸菌研究をさらに発展させ、抗酸菌症の制御に少しでも貢献したいと考えております。また、水産動物医療の分野においては、獣医師の役割がますます重要となっております。今後は、本領域で活躍し得る人材の育成にも尽力していきたいと考えております。

好きなこと・大事にしていること

好きなことは筋トレです。どんな困難も打ち破るパワーと根性を身につけるため、日々トレーニングに励んでいます。

在学生へのメッセージ

魚病学に興味を持ってもらえるよう、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いします。

獣医学科・獣医微生物学研究室

助教 福士 法子

これまでは…

北海道大学獣医学部にて帯広畜産大学との共同獣医学課程1期生として双方の先生方から専門教育を受け、課題研究（卒業研究）では豚熱ウイルスの病原性に関する研究を行いました。獣医師免許を取得、卒業後は岐阜大学大学院連合獣医学研究科に進学し、馬ヘルペスウイルス1型の必須タンパク質とワクチン応用に関する研究を行いました。連合大学院であったため、授業で他大学の学生と交流の機会があったり、連携機関に実習しに行ったりなどしました。学位を取得後は、東京大学大学院農学生命科学研究科にて特任研究員として牛伝染性リンパ腫ウイルスに関する研究に3年間従事しました。

これからの意気込み

高等教育と研究に携われる大学教員に関心があったため、本学でそのキャリアを始めることができることを嬉しく思います。教育では獣医微生物学実習等を担当しますが、学生の知識・技術の習得が確かなものになるよう努力していきます。研究はこれまでウイルス学が主でしたが、細菌学分野にも挑戦できたらと考えています。学生と共に学ぶ姿勢を忘れず、教育・研究に真摯に取り組んでいきたいです。

好きなこと・大事にしていること

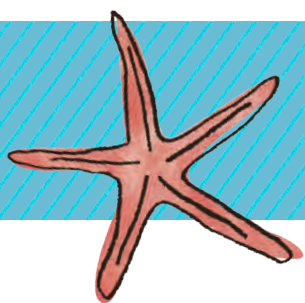
大学生の頃から、ポッドキャスト・ラジオを聴くことが好きです。きっかけは、語学学習のためでしたが、今では、ニュース、ビジネス、学術、エンタメなど、さまざまなジャンルの番組を聴いています。獣医系だと「Emerging Infectious Diseases」、「The WSAVA Podcast」を聴いています。最近は「滔々咄」という音声業界人の対談番組が面白いなと思っています。

自分の大事な指針となっている言葉に、スコット・フィッツジェラルドの娘への手紙の「気にすべきこと・気にすべきでないこと・考えるべきこと」があります。今、自分が果たすべきことは何か？を思い出させてくれます。

在学生へのメッセージ

社会人になる前の学生時代は、失敗から学べる貴重な期間だと思います。また、多様な価値観を持つ人と出会う機会も多いと思います。さまざまな出来事や周囲との関わりを通して、変化・成長していく自分自身を楽しんでください。





nichistagram



私の学生生活

Related Hashtags: # 協力してくださった皆さん # ありがとうございます! # またよろしくお願いします!

haku_0702_75th



#日獣大 75 期ケネル犬 #ハク
#シベリアンハスキー

「大学案内 2027」の表紙になりました!

nvlu.horse



#馬術部

練習終わりに記念撮影しました

Animal_Nut55



#富士アニマルファーム #富士山
#黒毛和種

富士山をバックに教授、室員と1枚!

第 83 号表紙絵
獣医保健看護学科3年 塚越若菜さん 制作



夕焼けの中で犬と少女が戯れる様子を描くことで
日獣生の動物愛と温かい雰囲気表現しました。
この絵が多くの人に日獣の魅力を知っていただく
きっかけになれば嬉しいです。

Hello, we are NVLU(ニチジュウ) - 日本獣医生命科学大学報 - 第 83 号 (2026 年 7 月号) 2026 年 7 月 14 日発行

協力(以下敬称略)/教職員: 鈴木浩悦学長 堀達也 柴田昌宏 中尾暢宏 渡辺雄貴 三浦孝之 手嶋隆洋 康村裕典 和田新平 影山敦子 菅井和久

小峰壮史 福士法子

学 生: 久米将太郎 栗田翔心 小泉華蓮 内田陽香 堀井歩海 太田りょう 鈴木麗 末藤倫 乙坂里奈 三浦真央 進藤美生

東仲風佳 松井愛翔 澤口凛 榎本悠斗

卒業生: 高橋祐貴

その他ご協力いただいた皆様ありがとうございました!

表 紙/塚越若菜

編集・発行/日本獣医生命科学大学 入試課: 大沼友美 右田麻衣子 堀碧衣 菅原素文 前内由依 庶務課: 加賀美早紀 博物館: 石井奈穂美

印 刷/デジタルブレンド株式会社

